

「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」

評 価 基 準

(品質・性能等の評価に関する事項)

令和 8 年版

評価対象材料名

樹脂製建具（コンクリート系下地および鉄骨下地）

細 目

- ① A種
- ② B種
- ③ C種

一般社団法人 公共建築協会

評価基準の説明 【樹脂製建具（コンクリート系下地および鉄骨下地） ①A種・②B種・③C種】

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和7年版16章3節に規定する樹脂製建具（コンクリート系下地および鉄骨下地）とし、既製の無可塑ポリ塩化ビニル製建具用形材等を用いて通常製作している建具とする。したがって、新たに形材を製作するもの等は、対象としない。

なお、耐風圧性、気密性および水密性の等級は、以下による。

細 目	耐風圧性	気 密 性	水 密 性
①A種	S－4	A－4	W－4
②B種	S－5		W－5
③C種	S－6		

2. 引用している規定

（1）標仕 令和7年版

（2）日本産業規格

- ・JIS A 1416：2000「実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法」
- ・JIS A 1492：2006「出窓及び天窓の断熱性試験方法」
- ・JIS A 1515：1998「建具の耐風圧性試験方法」
- ・JIS A 1516：1998「建具の気密性試験方法」
- ・JIS A 1517：2020「建具の水密性試験方法」
- ・JIS A 1518：1996「ドアセットの砂袋による耐衝撃性試験方法」
- ・JIS A 1519：2020「建具の開閉力試験方法」
- ・JIS A 1522：1996「建具の戸先かまち強さ試験方法」
- ・JIS A 1523：1996「ドアセットのねじり強さ試験方法」
- ・JIS A 1524：1996「ドアセットの鉛直載荷試験方法」
- ・JIS A 1530：2014「建具の開閉繰返し試験方法」
- ・JIS A 2102-1：2021「窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般」
- ・JIS A 2102-2：2011「窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法」
- ・JIS A 4702：2021「ドアセット」
- ・JIS A 4706：2021「サッシ」
- ・JIS A 4710：2015「建具の断熱性試験方法」
- ・JIS A 5558：2019「無可塑ポリ塩化ビニル製建具用形材」
- ・JIS A 5756：2025「建築用ガasket」
- ・JIS A 5758：2022「建築用シーリング材」
- ・JIS G 4305：2021「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」
- ・JIS K 6911：2006「熱硬化性プラスチック一般試験方法」
- ・JIS K 7111-1：2012「プラスチック－シャルピー衝撃特性の求め方－第1部：非計装化衝撃試験」
- ・JIS K 7161-2：2014「プラスチック－引張特性の求め方－第2部：型成形、押出成形及び注型プラスチックの試験条件」
- ・JIS K 7171：2022「プラスチック－曲げ特性の求め方」
- ・JIS K 7206：2016「プラスチック－熱可塑性プラスチック－ビカット軟化温度（VST）の求め方」

- ・ JIS L 0804 : 2004 「変退色用グレースケール」
- ・ JIS Q 1000 : 2005 「適合性評価－製品規格への自己適合宣言指針」
- ・ JIS Q 17050-1 : 2005 「適合性評価－供給者適合宣言－第 1 部：一般要求事項」
- ・ JIS R 3209 : 2018 「複層ガラス」

3. 令和 7 年度版からの主な改定

- ・ なし

4. その他

- (1) 「付帯性能」とは、評価項目ではないが、使用箇所等によっては、その性能が必要となるものをいう。
- (2) 「品質・性能」欄の“申請者の規定による。”とは、評価基準としての規定がないため、申請者の規定によることとする。なお、審査は、記入された申請者の規定について、社内規定等と照合して確認することとしている。
- (3) 赤字は、令和 7 年版からの改定箇所を示す。

項 目			品 質 ・ 性 能				備 考
材 料	樹 脂 形 材		ビカット軟化温度		83℃以上		
			引 張 降 伏 応 力		36.8MPa 以上		
			曲 げ 弾 性 率		2000MPa 以上		
			シャルピー衝撃値	窓 用 形 材	23℃	45.0KJ/㎡以上	
					-10℃	18.0KJ/㎡以上	
			耐 燃 性	押 出 形 材	不燃性 1)		
				共押出形材	HB 級 2)		
	注 1) : JIS K 6911 の 5.24 「耐燃性」に規定する A 法によって測定し、3 試験片とも不燃性であること。 2) : JIS K 6911 の 5.24 に規定する C 法によって測定し、3 試験片とも HB 級であること。また、炎が 25.4mm 標線に達せずに消えても材料性能を満足すること。						
	樹 脂 形 材 の 外 観		表面にきず、凹凸、割れ、異物などの樹脂製建具として使用上の有害な欠陥がないこと。				
	ス テ ン レ ス 鋼 板	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1				
	く つ ず り	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1				
		厚 さ	1.5mm				
		表 面 仕 上 げ	HL				
補強材、力骨、アンカー等		鋼製、ステンレス製またはアルミニウム合金とする。 鋼製のものは、亜鉛めっき等の接触腐食の防止措置を講ずる。					
気 密 材		耐久性を有し、使用箇所に適したものとする。					
戸車、振れ止め、戸当たりの類		同 上					
小 ね じ 等		ステンレス製					
ガ ラ ス		JIS R 3209 による。					
ガラス留め	シーリング材 の 場 合	JIS A 5758 によるシリコン系					
	グレイジング ガ ス ケ ッ ト の 場 合	JIS A 5756 に準じた塩化ビニル系、合成ゴム系					

項 目		品 質 ・ 性 能	備 考																																				
形 材 の 性 能	反	押出成形方向に対して、1.0mm/m 以内とすること。																																					
	加 熱 伸 縮 率	試験したとき、絶対値が、2.5%以下であること。																																					
	加 熱 後 の 表 面 変 化	試験したとき、気泡、割れ、表面はく離などの表面変化がないこと。																																					
	耐 候 性	変 退 色	試験したとき、室外側表面は、JIS L 0804 で規定する変退色用グレースケール 3～5 号の範囲内であること。																																				
		促進暴露試験後のシャルピー衝撃値	試験したとき、窓用形材のうちの押出形材は $23 \pm 2^{\circ}\text{C}$ で、 31.5kJ/m^2 以上であること。																																				
コ ー ナ ー 溶 着 性 能		試験したとき、①または②を満足すること。ただし、窓用形材の組立に、ビス組みなどの機械的な緊結方法および接着などの化学的な方法を行う場合や、アルミニウムと樹脂から構成される複合サッシは除く。 ①最大応力：平均値 12.0MPa 以上、かつ、各々8.0MPa 以上 ②最 大 力：平均値 2500N 以上、かつ、各々1500N 以上																																					
形 状 ・ 仕 上 げ	枠、かまち等主要部形材に用いる外周部（リブや突起部を除く。）の樹脂肉厚		表面強度を保つように2.0mm 以上とすること。																																				
	ガラスのはめ込みの構造		押縁（外押縁または内押縁）およびグレイジングガスケットが使用できる構造とすること。																																				
	網 戸 の 取 付 け		外部に面する引違い窓・片引き窓は、容易に取り付けられる構造とすること。																																				
	ガラス溝の寸法、形状等		申請者の規定による。																																				
	外部に面する建具の水抜き孔		外部に面する網入り板ガラス、線入り板ガラス、合わせガラス及び複層ガラスを受ける下端ガラス溝には、径6mm 以上の水抜き孔を2か所以上設ける。また、セッティングブロックによるせき止めがある場合には、セッティングブロックの中間に1か所追加する。																																				
	外 部 に 面 す る 建 具		構成部材接合部からの水漏れおよびすきま風を防止するように、枠およびかまちは溶着接合とすること。																																				
	製 品 の 許 容 差		<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象部位</th><th>寸 法</th><th>寸法許容差 (mm)</th><th>相対する辺寸法の差 (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">枠 の 幅</td><td>2,000 未満</td><td>± 1.5</td><td>2 以下</td></tr> <tr> <td>2,000 以上 3,500 未満</td><td>± 2.0</td><td>3 以下</td></tr> <tr> <td>3,500 以上</td><td>± 2.5</td><td>4 以下</td></tr> <tr> <td rowspan="3">枠の高さ</td><td>2,000 未満</td><td>± 1.5</td><td>2 以下</td></tr> <tr> <td>2,000 以上 3,500 未満</td><td>± 2.0</td><td>3 以下</td></tr> <tr> <td>3,500 以上</td><td>± 2.5</td><td>4 以下</td></tr> <tr> <td rowspan="4">枠 見 込</td><td>120 未満</td><td>± 1.0</td><td>—</td></tr> <tr> <td>120 以上 150 未満</td><td>± 1.5</td><td>—</td></tr> <tr> <td>150 以上 200 未満</td><td>± 2.0</td><td>—</td></tr> <tr> <td>200 以上</td><td>± 2.5</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	対象部位	寸 法	寸法許容差 (mm)	相対する辺寸法の差 (mm)	枠 の 幅	2,000 未満	± 1.5	2 以下	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下	3,500 以上	± 2.5	4 以下	枠の高さ	2,000 未満	± 1.5	2 以下	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下	3,500 以上	± 2.5	4 以下	枠 見 込	120 未満	± 1.0	—	120 以上 150 未満	± 1.5	—	150 以上 200 未満	± 2.0	—	200 以上	± 2.5
対象部位	寸 法	寸法許容差 (mm)	相対する辺寸法の差 (mm)																																				
枠 の 幅	2,000 未満	± 1.5	2 以下																																				
	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下																																				
	3,500 以上	± 2.5	4 以下																																				
枠の高さ	2,000 未満	± 1.5	2 以下																																				
	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下																																				
	3,500 以上	± 2.5	4 以下																																				
枠 見 込	120 未満	± 1.0	—																																				
	120 以上 150 未満	± 1.5	—																																				
	150 以上 200 未満	± 2.0	—																																				
	200 以上	± 2.5	—																																				

項 目			品 質 ・ 性 能		備 考	
加工・組立	建 具 の 製 作 、 ガ ラ ス ・ 押 縁 の は め 込 み		原則として建具の製造所で行うこと。			
	枠、くつずり、水切り板等のアンカー		建具に適したものとし、両端から逃げた位置から、間隔 500mm 以下に取り付けること。			
	雨水侵入のおそれのある接合部の措置		その箇所に適したシーリング材または止水材を用いて止水処理を行うこと。			
	枠・戸に付属品を取付けるための補強		必要に応じて、施されていること。			
	水切り、ぜん板、額縁、ガラリ等の付帯品		必要に応じて、取り付けられること。			
建具の性能	ね じ り 強 さ (ドアセットの場合)	載荷荷重 200N	試験後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。			
	鉛 直 荷 重 強 さ (ドアセットの場合)	載荷荷重 500N	試験後、残留変位が 3mm 以下で、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。			
	耐 衝 撃 性 (ドアセットの場合) 注)：スライディングおよび戸の面積の 50% 以上をガラスが占めるものは適用外	落下高さ 170mm	1 回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。ただし、ガラスの破損は判定に含まない。			
	開 閉 力		載荷荷重 50N	試験後、戸が円滑に開くこと、また、戸が円滑に閉じること。		
	開 閉 繰 返 し	一般の窓	開閉回数 1 万回	試験後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。		
		掃出し窓	開閉回数 3 万回			
		ド ア セット	開閉回数 10 万回			
	外部に面する建具の耐風圧性		等 級	S-4		
			最 高 圧 力	2000Pa		
			1. 加圧中、戸のはずれおよび破壊が生じないこと。 2. 除圧後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。 3. 変位またはたわみ率は、以下による。			
			部 位		変位またはたわみ率	
			スライディングの召合せかまち、突合せかまち、召合せ中骨またはスイングの両開きなどの召合せかまちと各部材に平行する方向の内のり寸法の変位		1/ 70 以下	
スイングの枠、無目、方立など、戸の周辺に接する部材の相対変位			15 mm以下			
無目、方立がある場合のたわみ率			1/100 以下			
構成するガラスの1枚の厚さが 6.8mm 以上の場合のたわみ率			中棧及び中骨		1/150 以下	
			召合せかまち 突合せかまち	中棧あり	1/ 85 以下	
				中棧なし	1/100 以下	
	召合せ中骨 枠 付 け 中 骨	中棧あり	1/ 85 以下			
		中棧なし	1/100 以下			

項 目		品 質 ・ 性 能					備 考	
建 具 の 性 能 (続 き)	外部に面する建具の気密性	気 密 性 の 等 級		A-4			通気量が JIS A 4706 の図－1 に規定する気密等級線以下であること。	
		気 密 等 級 線		A-4 等級線				
	外部に面する建具の水密性	水 密 性 の 等 級		W-4			加圧中に JIS A 1517 に規定する枠外への流れ出し、しぶき、吹き出し、あふれ出しの状況が発生しないこと。	
		サッシ前後の圧力差		350Pa				
遮 音 性 [付帯性能]	遮 音 性 の 等 級		T-1	T-2			125HZ～4000HZ の 16 点における音響透過損失が、JIS A 4706 の図－2 に規定する遮音等級線に対して、表 1 遮音性の a) または b) のいずれかに適合すること。	
	遮 音 等 級 線		T-1 等級線	T-2 等級線				
断 熱 性 [付帯性能]	断 熱 性 の 等 級		H-4	H-5	H-6	H-7	H-8	注)：熱貫流率は、試験による場合、JIS A 4710 による標準化熱貫流率とする。
	熱貫流率 W/ (㎡・K)		2.9 以下	2.3 以下	1.9 以下	1.5 以下	1.1 以下	
日 射 熱 取 得 性 [付帯性能]	日射熱取得性の等級		N-1		N-2		N-3	
	日 射 熱 取 得 率		1.00 以下		0.50 以下		0.35 以下	
防 火 性 能 [付帯性能]	申請者の規定による。							
試験方法	1. 試験一般は、JIS A 4702 の「9.1 一般」、JIS A 4706 「9.1 一般」または JIS A 5558 の「9.1 一般」による。 2. 樹脂型材の材料試験は、JIS A 5558 の「付属書 A」による。 3. 樹脂型材の外観試験は、JIS A 5558 の「9.2 型材の外観」による。 4. 反りの測定は、JIS A 5558 の「9.3 反りの測定」による。 5. 加熱伸縮率の測定は、JIS A 5558 の「9.4 加熱伸縮率の測定」による。 6. 加熱後の表面変化の測定は、JIS A 5558 の「9.5 加熱後の表面変化の測定」による。 7. 耐候性能の測定は、JIS A 5558 の「9.6 耐候性能の測定」による。 8. コーナー溶着性能の測定は、JIS A 5558 の「9.7 コーナー溶着性能の測定」による。 9. ねじり強さ試験は、JIS A 1523 による。 10. 鉛直荷重強さ試験は、JIS A 1524 による。 11. 耐衝撃性試験は、JIS A 1518 による。ただし、JIS A 1518 の「5.3(6)繰返し試験」は除くものとする。 12. 開閉力試験は、JIS A 1519 による。 13. 開閉繰返し試験は、JIS A 1530 による。 14. 耐風圧性試験は、JIS A 4702 の「9.7 耐風圧性試験」または JIS A 4706 「9.4 耐風圧性試験」による。 15. 気密性試験は、JIS A 4702 の「9.8 気密性試験」または JIS A 4706 「9.5 気密性試験」による。 16. 水密性試験は、JIS A 4702 の「9.9 水密性試験」または JIS A 4706 「9.6 水密性試験」による。 17. 遮音性試験は、JIS A 4702 の「9.10 遮音性試験」または JIS A 4706 「9.8 遮音性試験」による。 18. 断熱性試験は、JIS A 4710 による。なお、断熱性能を計算により行う場合は、JIS A 2102-1 および JIS A 2102-2 による計算書に加え、JIS Q 1000 および JIS Q 17050-1 による自己適合宣言書を提出する。また、試験結果は、有効数字 2 桁で表すこととする。 19. 日射熱取得性の計算は、JIS A 4702 の「9.」または JIS A 4706 「9.」による。 20. 試験体は、シリーズを代表する建具で、複層ガラスの組合せごと、かつ、枠見込み寸法ごととし、寸法は W1800mm × H1700mm 程度とする。開閉繰返し試験の試験体は、耐風圧性が一番低い申請品とする。また、引違い戸の試験対象障子は、内障子とする。 21. コーナー溶着性能の試験体を使用する型材の種類は、19. の建具の代表的な型材とするが、異断面の溶着がある場合は、同断面型材同士で作成した試験体でも可とする。 22. 型材の形状により別途試験が必要と判断されるときは、協会と協議する。							

項 目			品 質 ・ 性 能				備 考
材 料	樹 脂 形 材		ビカット軟化温度		83℃以上		
			引 張 降 伏 応 力		36.8MPa 以上		
			曲 げ 弾 性 率		2000MPa 以上		
			シャルピー衝撃値	窓 用 形 材	23℃	45.0KJ/㎡以上	
					-10℃	18.0KJ/㎡以上	
			耐 燃 性	押 出 形 材	不燃性 1)		
				共押出形材	HB 級 2)		
	注 1) : JIS K 6911 の 5.24 「耐燃性」に規定する A 法によって測定し、3 試験片とも不燃性であること。 2) : JIS K 6911 の 5.24 に規定する C 法によって測定し、3 試験片とも HB 級であること。また、炎が 25.4mm 標線に達せずに消えても材料性能を満足すること。						
	樹 脂 形 材 の 外 観		表面にきず、凹凸、割れ、異物などの樹脂製建具として使用上の有害な欠陥がないこと。				
	ス テ ン レ ス 鋼 板	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1				
	く つ ず り	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1				
		厚 さ	1.5mm				
		表 面 仕 上 げ	HL				
補強材、力骨、アンカー等		鋼製、ステンレス製またはアルミニウム合金とする。 鋼製のものは、亜鉛めっき等の接触腐食の防止措置を講ずる。					
気 密 材		耐久性を有し、使用箇所に適したものとする。					
戸車、振れ止め、戸当たりの類		同 上					
小 ね じ 等		ステンレス製					
ガ ラ ス		JIS R 3209 による。					
ガラス留め	シーリング材 の 場 合	JIS A 5758 によるシリコン系					
	グレイジング ガ ス ケ ッ ト の 場 合	JIS A 5756 に準じた塩化ビニル系、合成ゴム系					

項 目		品 質 ・ 性 能	備 考																																				
形 材 の 性 能	反	押出成形方向に対して、1.0mm/m 以内とすること。																																					
	加 熱 伸 縮 率	試験したとき、絶対値が、2.5%以下であること。																																					
	加 熱 後 の 表 面 変 化	試験したとき、気泡、割れ、表面はく離などの表面変化がないこと。																																					
	耐 候 性	変 退 色	試験したとき、室外側表面は、JIS L 0804 で規定する変退色用グレースケール 3～5 号の範囲内であること。																																				
		促進暴露試験後のシャルピー衝撃値	試験したとき、窓用形材のうちの押出形材は $23 \pm 2^{\circ}\text{C}$ で、 31.5kJ/m^2 以上であること。																																				
コ ー ナ ー 溶 着 性 能		試験したとき、①または②を満足すること。ただし、窓用形材の組立に、ビス組みなどの機械的な緊結方法および接着などの化学的な方法を行う場合や、アルミニウムと樹脂から構成される複合サッシは除く。 ①最大応力：平均値 12.0M Pa 以上、かつ、各々8.0M Pa 以上 ②最 大 力：平均値 2500N 以上、かつ、各々1500N 以上																																					
形 状 ・ 仕 上 げ	枠、かまち等主要部形材に用いる外周部（リブや突起部を除く。）の樹脂肉厚		表面強度を保つように2.0mm 以上とすること。																																				
	ガラスのはめ込みの構造		押縁（外押縁または内押縁）およびグレイジングガスケットが使用できる構造とすること。																																				
	網 戸 の 取 付 け		外部に面する引違い窓・片引き窓は、容易に取り付けられる構造とすること。																																				
	ガラス溝の寸法、形状等		申請者の規定による。																																				
	外部に面する建具の水抜き孔		外部に面する網入り板ガラス、線入り板ガラス、合わせガラス及び複層ガラスを受ける下端ガラス溝には、径6mm 以上の水抜き孔を2か所以上設ける。また、セッティングブロックによるせき止めがある場合には、セッティングブロックの中間に1か所追加する。																																				
	外 部 に 面 す る 建 具		構成部材接合部からの水漏れおよびすきま風を防止するように、枠およびかまちは溶着接合とすること。																																				
	製 品 の 許 容 差		<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象部位</th><th>寸 法</th><th>寸法許容差 (mm)</th><th>相対する辺寸法の差 (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">枠 の 幅</td><td>2,000 未満</td><td>± 1.5</td><td>2 以下</td></tr> <tr> <td>2,000 以上 3,500 未満</td><td>± 2.0</td><td>3 以下</td></tr> <tr> <td>3,500 以上</td><td>± 2.5</td><td>4 以下</td></tr> <tr> <td rowspan="3">枠の高さ</td><td>2,000 未満</td><td>± 1.5</td><td>2 以下</td></tr> <tr> <td>2,000 以上 3,500 未満</td><td>± 2.0</td><td>3 以下</td></tr> <tr> <td>3,500 以上</td><td>± 2.5</td><td>4 以下</td></tr> <tr> <td rowspan="4">枠 見 込</td><td>120 未満</td><td>± 1.0</td><td>—</td></tr> <tr> <td>120 以上 150 未満</td><td>± 1.5</td><td>—</td></tr> <tr> <td>150 以上 200 未満</td><td>± 2.0</td><td>—</td></tr> <tr> <td>200 以上</td><td>± 2.5</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	対象部位	寸 法	寸法許容差 (mm)	相対する辺寸法の差 (mm)	枠 の 幅	2,000 未満	± 1.5	2 以下	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下	3,500 以上	± 2.5	4 以下	枠の高さ	2,000 未満	± 1.5	2 以下	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下	3,500 以上	± 2.5	4 以下	枠 見 込	120 未満	± 1.0	—	120 以上 150 未満	± 1.5	—	150 以上 200 未満	± 2.0	—	200 以上	± 2.5
対象部位	寸 法	寸法許容差 (mm)	相対する辺寸法の差 (mm)																																				
枠 の 幅	2,000 未満	± 1.5	2 以下																																				
	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下																																				
	3,500 以上	± 2.5	4 以下																																				
枠の高さ	2,000 未満	± 1.5	2 以下																																				
	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下																																				
	3,500 以上	± 2.5	4 以下																																				
枠 見 込	120 未満	± 1.0	—																																				
	120 以上 150 未満	± 1.5	—																																				
	150 以上 200 未満	± 2.0	—																																				
	200 以上	± 2.5	—																																				

項 目		品 質 ・ 性 能		備 考
加工・組立	建具の製作、ガラス・押縁のはめ込み	原則として建具の製造所で行うこと。		
	枠、くつずり、水切り板等のアンカー	建具に適したものとし、両端から逃げた位置から、間隔 500mm 以下に取り付けること。		
	雨水侵入のおそれのある接合部の措置	その箇所に適したシーリング材または止水材を用いて止水処理を行うこと。		
	枠・戸に付属品を取付けるための補強	必要に応じて、施されていること。		
	水切り、ぜん板、額縁、ガラリ等の付帯品	必要に応じて、取り付けられること。		
建具の性能	ねじり強さ (ドアセットの場合)	載荷荷重 200N	試験後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
	鉛直荷重強さ (ドアセットの場合)	載荷荷重 500N	試験後、残留変位が 3mm 以下で、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
	耐 衝 撃 性 (ドアセットの場合) 注)：スライディングおよび戸の面積の 50% 以上をガラスが占めるものは適用外	落下高さ 170mm	1 回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。ただし、ガラスの破損は判定に含まない。	
	開 閉 力	載荷荷重 50N	試験後、戸が円滑に開くこと、また、戸が円滑に閉じること。	
	開 閉 繰 返 し	一般の窓 開閉回数 1 万回	試験後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。	
		掃出し窓 開閉回数 3 万回		
		ド ア セット 開閉回数 10 万回		
	戸先かまち強さ (サッシでスライディングの場合)	載荷荷重 50N	面内方向のたわみが 1mm 以下で、かつ、面外方向のたわみが 3mm 以下であること。	
	外部に面する建具の耐風圧性		等 級	S-5
			最 高 圧 力	2400Pa
			1. 加圧中、戸のはずれおよび破壊が生じないこと。 2. 除圧後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。 3. 変位またはたわみ率は、以下による。	
			部 位	変位またはたわみ率
			スライディングの召合せかまち、突合せかまち、召合せ中骨またはスイングの両開きなどの召合せかまちと各部材に平行する方向の内のり寸法の変位	1/ 70 以下
			スイングの枠、無目、方立など、戸の周辺に接する部材の相対変位	15 mm以下
			無目、方立がある場合のたわみ率	1/100 以下
			構成するガラスの 1 枚の厚さが 6.8mm 以上の場合のたわみ率	1/150 以下
			召合せかまち 突合せかまち	中棧あり 1/ 85 以下 中棧なし 1/100 以下
			召合せ中骨 枠 付 け 中 骨	中棧あり 1/ 85 以下 中棧なし 1/100 以下

項 目		品 質 ・ 性 能					備 考	
建 具 の 性 能 (続 き)	外部に面する建具の気密性	気 密 性 の 等 級		A-4			通気量が JIS A 4706 の図－1 に規定する気密等級線以下であること。	
		気 密 等 級 線		A-4 等級線				
	外部に面する建具の水密性	水 密 性 の 等 級		W-5			加圧中に JIS A 1517 に規定する枠外への流れ出し、しぶき、吹き出し、あふれ出しの状況が発生しないこと。	
		サッシ前後の圧力差		500Pa				
	遮 音 性 [付帯性能]	遮 音 性 の 等 級		T-1	T-2		125HZ～4000HZ の 16 点における音響透過損失が、JIS A 4706 の図－2 に規定する遮音等級線に対して、表 1 遮音性の a) または b) のいずれかに適合すること。	
		遮 音 等 級 線		T-1 等級線	T-2 等級線			
断 熱 性 [付帯性能]	断 熱 性 の 等 級		H-4	H-5	H-6	H-7	H-8	注)：熱貫流率は、試験による場合、JIS A 4710 による標準化熱貫流率とする。
	熱貫流率 W/ (㎡・K)		2.9 以下	2.3 以下	1.9 以下	1.5 以下	1.1 以下	
日 射 熱 取 得 性 [付帯性能]	日射熱取得性の等級		N-1		N-2		N-3	
	日 射 熱 取 得 率		1.00		0.50		0.35	
防 火 性 能 [付帯性能]	申請者の規定による。							
試験方法	1. 試験一般は、JIS A 4702 の「9.1 一般」、JIS A 4706 「9.1 一般」または JIS A 5558 の「9.1 一般」による。 2. 樹脂形材の材料試験は、JIS A 5558 の「付属書 A」による。 3. 樹脂形材の外観試験は、JIS A 5558 の「9.2 形材の外観」による。 4. 反りの測定は、JIS A 5558 の「9.3 反りの測定」による。 5. 加熱伸縮率の測定は、JIS A 5558 の「9.4 加熱伸縮率の測定」による。 6. 加熱後の表面変化の測定は、JIS A 5558 の「9.5 加熱後の表面変化の測定」による。 7. 耐候性能の測定は、JIS A 5558 の「9.6 耐候性能の測定」による。 8. コーナー溶着性能の測定は、JIS A 5558 の「9.7 コーナー溶着性能の測定」による。 9. ねじり強さ試験は、JIS A 1523 による。 10. 鉛直荷重強さ試験は、JIS A 1524 による。 11. 耐衝撃性試験は、JIS A 1518 による。ただし、JIS A 1518 の「5.3(6)繰り返し試験」は除くものとする。 11. 開閉力試験は、JIS A 1519 による。 13. 開閉繰返し試験は、JIS A 1530 による。 14. 戸先かまち強さ試験は、JIS A 1522 による。 15. 耐風圧性試験は、JIS A 4702 の「9.7 耐風圧性試験」または JIS A 4706 「9.4 耐風圧性試験」による。 16. 気密性試験は、JIS A 4702 の「9.8 気密性試験」または JIS A 4706 「9.5 気密性試験」による。 17. 水密性試験は、JIS A 4702 の「9.9 水密性試験」または JIS A 4706 「9.6 水密性試験」による。 18. 遮音性試験は、JIS A 4702 の「9.10 遮音性試験」または JIS A 4706 「9.8 遮音性試験」による。 19. 断熱性試験は、JIS A 4710 による。なお、断熱性能を計算により行う場合は、JIS A 2102-1 および JIS A 2102-2 による計算書に加え、JIS Q 1000 および JIS Q 17050-1 による自己適合宣言書を提出する。また、試験結果は、有効数字 2 桁で表すこととする。 20. 試験体は、シリーズを代表する建具で、複層ガラスの組合せごと、かつ、枠見込み寸法ごととし、寸法は W1800mm × H1700mm 程度とする。開閉繰返し試験の試験体は、耐風圧性が一番低い申請品とする。また、引違い戸の試験対象障子は、内障子とする。 21. コーナー溶着性能の試験体を使用する形材の種類は、20. の建具の代表的な形材とするが、異断面の溶着がある場合は、同断面形材同士で作成した試験体でも可とする。 22. 形材の形状により別途試験が必要と判断されるときは、協会と協議する。							

項 目			品 質 ・ 性 能				備 考
材 料	樹 脂 形 材		ビカット軟化温度		83℃以上		
			引 張 降 伏 応 力		36.8MPa 以上		
			曲 げ 弾 性 率		2000MPa 以上		
			シャルピー衝撃値	窓 用 形 材	23℃	45.0KJ/㎡以上	
					-10℃	18.0KJ/㎡以上	
			耐 燃 性	押 出 形 材	不燃性 1)		
				共押出形材	HB 級 2)		
	注 1) : JIS K 6911 の 5.24 「耐燃性」に規定する A 法によって測定し、3 試験片とも不燃性であること。 2) : JIS K 6911 の 5.24 に規定する C 法によって測定し、3 試験片とも HB 級であること。また、炎が 25.4mm 標線に達せずに消えても材料性能を満足すること。						
	樹 脂 形 材 の 外 観		表面にきず、凹凸、割れ、異物などの樹脂製建具として使用上の有害な欠陥がないこと。				
	ス テ ン レ ス 鋼 板	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1				
	く つ ず り	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1				
		厚 さ	1.5mm				
		表 面 仕 上 げ	HL				
補強材、力骨、アンカー等		鋼製、ステンレス製またはアルミニウム合金とする。 鋼製のものは、亜鉛めっき等の接触腐食の防止措置を講ずる。					
気 密 材		耐久性を有し、使用箇所に適したものとする。					
戸車、振れ止め、戸当たりの類		同 上					
小 ね じ 等		ステンレス製					
ガ ラ ス		JIS R 3209 による。					
ガラス留め	シーリング材 の 場 合	JIS A 5758 によるシリコン系					
	グレイジング ガ ス ケ ッ ト の 場 合	JIS A 5756 に準じた塩化ビニル系、合成ゴム系					

項 目		品 質 ・ 性 能	備 考																																				
形 材 の 性 能	反	押出成形方向に対して、1.0mm/m 以内とすること。																																					
	加 熱 伸 縮 率	試験したとき、絶対値が、2.5%以下であること。																																					
	加 熱 後 の 表 面 変 化	試験したとき、気泡、割れ、表面はく離などの表面変化がないこと。																																					
	耐 候 性	変 退 色	試験したとき、室外側表面は、JIS L 0804 で規定する変退色用グレースケール 3～5 号の範囲内であること。																																				
		促進暴露試験後のシャルピー衝撃値	試験したとき、窓用形材のうちの押出形材は $23 \pm 2^{\circ}\text{C}$ で、 31.5kJ/m^2 以上であること。																																				
コ ー ナ ー 溶 着 性 能		試験したとき、①または②を満足すること。ただし、窓用形材の組立に、ビス組みなどの機械的な緊結方法および接着などの化学的な方法を行う場合や、アルミニウムと樹脂から構成される複合サッシは除く。 ①最大応力：平均値 12.0M Pa 以上、かつ、各々8.0M Pa 以上 ②最 大 力：平均値 2500N 以上、かつ、各々1500N 以上																																					
形 状 ・ 仕 上 げ	枠、かまち等主要部形材に用いる外周部（リブや突起部を除く。）の樹脂肉厚		表面強度を保つように2.0mm 以上とすること。																																				
	ガラスのはめ込みの構造		押縁（外押縁または内押縁）およびグレイジングガスケットが使用できる構造とすること。																																				
	網 戸 の 取 付 け		外部に面する引違い窓・片引き窓は、容易に取り付けられる構造とすること。																																				
	ガラス溝の寸法、形状等		申請者の規定による。																																				
	外部に面する建具の水抜き孔		外部に面する網入り板ガラス、線入り板ガラス、合わせガラス及び複層ガラスを受ける下端ガラス溝には、径6mm 以上の水抜き孔を2か所以上設ける。また、セッティングブロックによるせき止めがある場合には、セッティングブロックの中間に1か所追加する。																																				
	外 部 に 面 す る 建 具		構成部材接合部からの水漏れおよびすきま風を防止するように、枠およびかまちは溶着接合とすること。																																				
	製 品 の 許 容 差		<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象部位</th><th>寸 法</th><th>寸法許容差 (mm)</th><th>相対する辺寸法の差 (mm)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">枠 の 幅</td><td>2,000 未満</td><td>± 1.5</td><td>2 以下</td></tr> <tr> <td>2,000 以上 3,500 未満</td><td>± 2.0</td><td>3 以下</td></tr> <tr> <td>3,500 以上</td><td>± 2.5</td><td>4 以下</td></tr> <tr> <td rowspan="3">枠の高さ</td><td>2,000 未満</td><td>± 1.5</td><td>2 以下</td></tr> <tr> <td>2,000 以上 3,500 未満</td><td>± 2.0</td><td>3 以下</td></tr> <tr> <td>3,500 以上</td><td>± 2.5</td><td>4 以下</td></tr> <tr> <td rowspan="4">枠 見 込</td><td>120 未満</td><td>± 1.0</td><td>—</td></tr> <tr> <td>120 以上 150 未満</td><td>± 1.5</td><td>—</td></tr> <tr> <td>150 以上 200 未満</td><td>± 2.0</td><td>—</td></tr> <tr> <td>200 以上</td><td>± 2.5</td><td>—</td></tr> </tbody> </table>	対象部位	寸 法	寸法許容差 (mm)	相対する辺寸法の差 (mm)	枠 の 幅	2,000 未満	± 1.5	2 以下	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下	3,500 以上	± 2.5	4 以下	枠の高さ	2,000 未満	± 1.5	2 以下	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下	3,500 以上	± 2.5	4 以下	枠 見 込	120 未満	± 1.0	—	120 以上 150 未満	± 1.5	—	150 以上 200 未満	± 2.0	—	200 以上	± 2.5
対象部位	寸 法	寸法許容差 (mm)	相対する辺寸法の差 (mm)																																				
枠 の 幅	2,000 未満	± 1.5	2 以下																																				
	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下																																				
	3,500 以上	± 2.5	4 以下																																				
枠の高さ	2,000 未満	± 1.5	2 以下																																				
	2,000 以上 3,500 未満	± 2.0	3 以下																																				
	3,500 以上	± 2.5	4 以下																																				
枠 見 込	120 未満	± 1.0	—																																				
	120 以上 150 未満	± 1.5	—																																				
	150 以上 200 未満	± 2.0	—																																				
	200 以上	± 2.5	—																																				

項 目			品 質 ・ 性 能		備 考		
加工・組立	建具の製作、ガラス・押縁のはめ込み		原則として建具の製造所で行うこと。				
	枠、くつずり、水切り板等のアンカー		建具に適したものとし、両端から逃げた位置から、間隔 500mm 以下に取り付けること。				
	雨水侵入のおそれのある接合部の措置		その箇所に適したシーリング材または止水材を用いて止水処理を行うこと。				
	枠・戸に付属品を取付けるための補強		必要に応じて、施されていること。				
	水切り、ぜん板、額縁、ガラリ等の付帯品		必要に応じて、取り付けられること。				
建具の性能	ねじり強さ (ドアセットの場合)		載荷荷重 200N	試験後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。			
	鉛直荷重強さ (ドアセットの場合)		載荷荷重 500N	試験後、残留変位が 3mm 以下で、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。			
	耐 衝 撃 性 (ドアセットの場合) 注)：スライディングおよび戸の面積の 50% 以上をガラスが占めるものは適用外		落下高さ 170mm	1 回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。ただし、ガラスの破損は判定に含まない。			
	開 閉 力		載荷荷重 50N	試験後、戸が円滑に開くこと、また、戸が円滑に閉じること。			
	開 閉 繰 返 し	一般の窓	開閉回数 1 万回	試験後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。			
		掃出し窓	開閉回数 3 万回				
		ド ア セット	開閉回数 10 万回				
	戸先かまち強さ (サッシでスライディングの場合)		載荷荷重 50N	面内方向のたわみが 1mm 以下で、かつ、面外方向のたわみが 3mm 以下であること。			
	外部に面する建具の耐風圧性			等 級	S-6	1. 加圧中、戸のはずれおよび破壊が生じないこと。 2. 除圧後、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。 3. 変位またはたわみ率は、以下による。	
				最 高 圧 力	2800Pa		
部 位				変位またはたわみ率			
スライディングの召合せかまち、突合せかまち、召合せ中骨またはスイングの両開きなどの召合せかまちと各部材に平行する方向の内のり寸法の変位				1/ 70 以下			
スイングの枠、無目、方立など、戸の周辺に接する部材の相対変位				15 mm以下			
無目、方立がある場合のたわみ率				1/100 以下			
構成するガラスの1枚の厚さが 6.8mm 以上の場合のたわみ率				中棧及び中骨			1/150 以下
				召合せかまち 突合せかまち	中棧あり		1/ 85 以下
					中棧なし		1/100 以下
				召合せ中骨 枠 付 け 中 骨	中棧あり		1/ 85 以下
		中棧なし	1/100 以下				

項 目		品 質 ・ 性 能						備 考
建 具 の 性 能 (続 き)	外部に面する建具の気密性	気 密 性 の 等 級		A-4				通気量が JIS A 4706 の図－1 に規定する気密等級線以下であること。
		気 密 等 級 線		A-4 等級線				
	外部に面する建具の水密性	水 密 性 の 等 級		W-5				加圧中に JIS A 1517 に規定する枠外への流れ出し、しぶき、吹き出し、あふれ出しの状況が発生しないこと。
		サッシ前後の圧力差		500Pa				
遮 音 性 [付帯性能]	遮 音 性 の 等 級		T-1		T-2		125HZ～4000HZ の 16 点における音響透過損失が、JIS A 4706 の図－2 に規定する遮音等級線に対して、表 1 遮音性の a) または b) のいずれかに適合すること。	
	遮 音 等 級 線		T-1 等級線		T-2 等級線			
断 熱 性 [付帯性能]	断 熱 性 の 等 級		H-4	H-5	H-6	H-7	H-8	注)：熱貫流率は、試験による場合、JIS A 4710 による標準化熱貫流率とする。
	熱貫流率 W/ (㎡・K)		2.9 以下	2.3 以下	1.9 以下	1.5 以下	1.1 以下	
日 射 熱 取 得 性 [付帯性能]	日射熱取得性の等級		N-1		N-2		N-3	
	日 射 熱 取 得 率		1.00		0.50		0.35	
防 火 性 能 [付帯性能]	申請者の規定による。							
試 験 方 法	1. 試験一般は、JIS A 4702 の「9.1 一般」、JIS A 4706 「9.1 一般」または JIS A 5558 の「9.1 一般」による。 2. 樹脂型材の材料試験は、JIS A 5558 の「付属書 A」による。 3. 樹脂型材の外観試験は、JIS A 5558 の「9.2 型材の外観」による。 4. 反りの測定は、JIS A 5558 の「9.3 反りの測定」による。 5. 加熱伸縮率の測定は、JIS A 5558 の「9.4 加熱伸縮率の測定」による。 6. 加熱後の表面変化の測定は、JIS A 5558 の「9.5 加熱後の表面変化の測定」による。 7. 耐候性能の測定は、JIS A 5558 の「9.6 耐候性能の測定」による。 8. コーナー溶着性能の測定は、JIS A 5558 の「9.7 コーナー溶着性能の測定」による。 9. ねじり強さ試験は、JIS A 1523 による。 10. 鉛直荷重強さ試験は、JIS A 1524 による。 11. 耐衝撃性試験は、JIS A 1518 による。ただし、JIS A 1518 の「5.3(6)繰り返し試験」は除くものとする。 12. 開閉力試験は、JIS A 1519 による。 13. 開閉繰返し試験は、JIS A 1530 による。 14. 戸先かまち強さ試験は、JIS A 1522 による。 15. 耐風圧性試験は、JIS A 4702 の「9.7 耐風圧性試験」または JIS A 4706 「9.4 耐風圧性試験」による。 16. 気密性試験は、JIS A 4702 の「9.8 気密性試験」または JIS A 4706 「9.5 気密性試験」による。 17. 水密性試験は、JIS A 4702 の「9.9 水密性試験」または JIS A 4706 「9.6 水密性試験」による。 18. 遮音性試験は、JIS A 4702 の「9.10 遮音性試験」または JIS A 4706 「9.8 遮音性試験」による。 19. 断熱性試験は、JIS A 4710 による。なお、断熱性能を計算により行う場合は、JIS A 2102-1 および JIS A 2102-2 による計算書に加え、JIS Q 1000 および JIS Q 17050-1 による自己適合宣言書を提出する。また、試験結果は、有効数字 2 桁で表すこととする。 20. 試験体は、シリーズを代表する建具で、複層ガラスの組合せごと、かつ、枠見込み寸法ごととし、寸法は W1800mm × H1700mm 程度とする。開閉繰返し試験の試験体は、耐風圧性が一番低い申請品とする。また、引違い戸の試験対象障子は、内障子とする。 21. コーナー溶着性能の試験体を使用する型材の種類は、20. の建具の代表的な型材とするが、異断面の溶着がある場合は、同断面型材同士で作成した試験体でも可とする。 22. 型材の形状により別途試験が必要と判断されるときは、協会と協議する。							